

# 令和3年度 南アルプス市立若草南小学校 学校関係者評価書

令和4年1月25日(火)  
学校関係者評価委員会作成

## 第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和4年1月25日(火) 紙面開催(参集せず紙面回答に協力していただいた)

参加者：学校関係者評価委員・教職員

河西 正仁(藤田区自治会長, 学校評議員)  
深沢 和治(浅原区自治会長, 学校評議員)  
飯野 章(元学校長, 教育ボランティア, 学校評議員)  
深澤 美香(主任児童委員, 学校評議員)  
穂坂 直人(PTA 会長, 学校評議員)  
原 美雪(PTA 副会長, 学校評議員)  
河野 瑞穂(校長)  
志村 泉(教頭)

### 1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②本年度の学校経営方針並びに現状
- ③学校評価の方法について
- ④評価の全体的な傾向について
- ⑤児童アンケートの内容と結果について
- ⑥教職員自己評価シートの内容と結果について
- ⑦まとめ：学校評価から見られる成果や課題, ならびに改善策について

### 2 回答された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

日 時：令和4年1月11日(火)

会 場：楡形北小学校図書室

評価者：学校関係者評価委員

# 令和3年度 南アルプス市立若草南小学校 後期自己評価書

南アルプス市立若草南小学校

校長 河野 瑞穂

## ● 学校教育目標

「学びを深め、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、深く考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔目指す学校像〕 笑顔あふれる学校  
学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校

〔育てたい児童像〕 人の痛みがわかる思いやりのある児童  
自分の考えをもち、チャレンジする児童  
若南プライドをもち、ふるさとを愛する児童

〔若南プライド〕

地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める  
積極的な活動に取り組む精神・自他の尊重・多様性を認め合う精神

## 〔学校経営の重点〕

### 1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。

- (1) 新学習指導要領の理念をふまえた児童や学校の実態に応じた教育課程の編成
- (2) 幼稚園・保育園・若草小学校・若草中学校との連携を考えた教育課程の編成
- (3) 各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事を含めた特別活動などの横のつながりと異学年間の縦のつながりを考えた効果的な教育課程の編成
- (4) 全教育活動を通じた体系的なキャリア教育の推進
- (5) 学校内外の教育資源の活用と体験学習の充実

### 2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

- (1) 学習意欲の向上や基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくり  
(反復繰り返し学習、市単講師によるTTや少人数指導)
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業を実践する。  
(若南スタンダードの定着化、問題解決的な学習展開、見通しと「対話」のある授業づくり)
- (3) 思考力・判断力・表現力を高めるためのコミュニケーション能力の進展  
(ICTの利活用、単元末評価問題の活用、協働的学習体制の充実、外国語教育の充実)
- (4) 組織的・計画的・継続的な校内研究の充実

(学級づくりと授業実践を中心とした校内研究の推進, 一校一実践・一人一実践の取組)

(5) 家庭学習の習慣化とアウトメディアの取組

(家庭学習の手引きの活用, 家庭学習取組強化週間, 主体的に取り組む学びノートの活用)

### 3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

(1) 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進

(人権尊重の理念に基づく教育活動, 話の聞き方 認め合い名人・あいづち名人)

(2) 全ての子の居場所のある居心地の良い学級経営の充実

(所属感, 自己有用感, 自己肯定感を持たせる取り組みの工夫, Q-Uの活用, 学校生活アンケートの活用, SOSの出し方に関する教育の実践)

(3) 学校教育全体を通して道徳教育の充実 (考え議論する道徳の推進)

(4) 児童会を中心とした仲間づくり・集団作り

(あいさつ運動, 縦割り班活動, ボランティア活動)

(5) 読書活動・音楽活動の推進

(朝読書の効果的実施, 図書集会の活用, 読み聞かせの取組, 歌声タイム, 音楽会)

(6) 集団生活のルールやマナーの徹底

(月ごとの生活目標, あいさつ運動, 無言清掃, 全校集会や全校放送の活用, 若南プライド「心のやりとりきちんといいさつ・心に向ける返事・心をそろえるくつそろえ」)

### 4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

(1) 運動の日常化による基礎体力づくり

(体育的行事の計画的実施, 「健康・体力づくり一校一実践運動」の取組)

(2) 粘り強く最後までやり抜く強い意志を育てる指導支援

(体育授業の充実, 粘り強さを大切に学習指導の充実)

(3) 基本的な生活習慣の確立と保健指導の充実, 給食指導を中心に食育の充実

(たよりや掲示物, 学級指導, 保健集会の活用, 給食週間の取組)

### 5 特別支援教育(特別支援学級・通級指導教室)の充実に努める。

(1) 児童の実態に応じた特別支援学級の運営

(2) 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営

(特別支援学習会の実施, ユニバーサルデザインの活用)

(3) 交流学級・在籍学級の担任, 保護者・関係諸機関との連携を活かした指導支援の充実

(機能的なケース会議開催, 外部の専門機関や関連行政機関との連携, 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用)

(4) サポートルーム若草南のセンター的機能の充実

(校内外のニーズをもつ児童のアセスメント, 教育相談)

### 6 児童の安全・安心を守り, 家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

(1) 全教職員が「一致協力」, 連携・協働し支え合う教職員組織「チーム若南」

(2) 自らの命は, 自ら守る「危険回避能力」の育成

(地震・火災想定避難訓練, 不審者対応訓練, 救命救急法訓練, 引き渡し訓練  
交通安全教室・自転車教室の実施, 防犯講話, 危機管理マニュアルの充実と改善)

(3) 保護者や地域住民と連携・協力した教育活動の展開

(地域・地域人材活用, 地域行事への参加・地域貢献)

(4) 小中一貫教育の推進

- (若草中学校区小中一貫教育推進協議会の推進，若草地区小中3校との交流，教科担任制)
- (5) 学校評価や保護者アンケートを活かしたPDCAサイクルによる学校運営，教育方針の改善  
(自己評価・学校関係者評価の実施，児童・保護者アンケートの実施，行事ごとの教職員や保護者アンケートと総括の実施)
- (6) 授業参観，各種たより，HP，安心メールによる情報発信  
(学校開放日，授業参観，学校行事への参加等教育内容の積極的公開，学校通信・学年通信・学級通信・保健だより・図書だより・給食だより等の発行，HPでの情報発信や安心メールを使った緊急連絡の活用)
- (7) 学校評議員制度の効果的な活用とPTA や地域との連携協力  
(地域ボランティアの活用，学校評議員会の開催，PTA 専門部の活動)

### 【評価方法】

児童，教職員に対して，アンケート用紙により回答を得た。

質問に対しての回答選択肢は4段階になっている。

A：そう思う

B：ほぼそう思う

C：あまりそう思わない

D：そう思わない

の4段階で，このうちAとBは肯定的なプラス評価であり，CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか，CとDのどちらを選ぶかについては，回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため，A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも，A・B合わせてのプラス傾向，C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が，全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで，各項目の回答に占める「A・B」の割合，「C・D」の割合を求め，

○「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）

○「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

## 1 第2回児童アンケート・保護者アンケートの考察

### 【児童アンケート】

1学期と比較し，差が見られた項目（3ポイント以上の差）

質問内容	1学期の肯定的な回答	2学期の肯定的な回答	差
3係や当番，清掃	98.5%	95.4%	-3.1%
6発言や意見・質問	81.0%	72.4%	-8.6%
7家庭学習や自主学習	91.4%	83.6%	-7.8%
8困ったとき相談できるか	86.5%	81.7%	-4.8%

児童アンケートの結果で，6と7の項目については大きな差が見られた。他の項目はほぼ1学期と同様な数値であった。

## 【保護者アンケート】

否定的な回答が多かった項目

質問内容	肯定的な回答	否定的な回答
3 あいさつをしている	84.2%	15.8%
4 家庭学習の習慣	77.0%	23.0%

保護者アンケートの結果は、10項目のうち9つの項目で肯定的な回答が80%を超えており、概ね満足できる結果であった。あいさつについては昨年度より0.8%上がっている。家庭学習の習慣については3.1%上がっている。否定的な回答が多かった2項目であるが、肯定的な割合が増えていることは取組効果が出ていると思われる。さらに連携をとり、家庭の協力を得ながら進めていきたい。

### 児童1の項目「学校は楽しいですか」について

「学校へ行くことが楽しい」については、すべての児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図り92.3%となった。しかし未だに7.7%の児童が否定的な回答をしている。保護者アンケートは89.9%であった。児童が悩みを抱えているのは、学習面なのか友達関係なのか、または家庭状況などもふまえた複数の原因に起因しているのか、寄り添い理解し、支援の手を指しのべて、児童の気持ちが満たされていくことが必要である。児童が「学校は楽しい」と感じ、学校が居心地の良い場所になるように今後も対応していく。

### 児童2の項目「あいさつがしっかりできている」について

#### 保護者3の項目「きちんとあいさつしている」について

児童アンケートでは91.4%の児童が、学校や地域においてあいさつをしていると回答し、1学期より若干数値が下がった。児童会のあいさつ運動・キラキラデーの取組や地域と一体となって行ったあいさつ週間などでよい成果も見られた。しかし、保護者アンケートでは84.2%が肯定的な回答であり、児童との結果に開きがあった。家庭ではあいさつに対する物足りなさを感じていると思われる。「あいさつは家庭から」を実践していただき、「地域でもあいさつが響く学校」を目指し、保護者との連携やあいさつ運動への取り組みを続けていきたい。

### 児童4の項目「授業がわかりますか」について

#### 児童6の項目「授業中に質問または意見を言いますか」について

「授業がわかることについて、93.6%（1学期より2.8%低下）と高い結果であった。「そう思う」と答えた割合は前期64.6%から後期56.3%に、「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた割合が前期3.6%だったが後期6.4%になっている。「授業中に発言や質問、意見を言いますか」についても、肯定的な答えが前期81%から後期72.4%に下がっている。校内研究で、基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくりや学習スタンダードに基づいた授業実践、思考力・判断力・表現力を高めるための授業展開に取り組んできた。学習の積み重ねが大事な2学期において数値が下がったことから、より一層、個に応じた指導や「わかりやすい授業」を行い、一人ひとりの学習意欲の向上、自信をもたせられるように定着を図っていくことが必要と思われる。

### 児童7の項目「家庭で宿題や自主学習を自分から進んでしていますか」

#### 保護者4の項目「家庭学習の習慣が身についている」について

児童アンケートでは、肯定的回答が 83.6%（前期は 91.4%）であるが、保護者アンケートでは 77.0%となっている。「そう思う」は 32.0%とアンケート項目の中でとても低い。家庭学習は保護者にとって大きな課題となっていることがわかる。学校では、学びノートの取組の様子をお便りで紹介したりや家庭学習見守り習慣の内容を改善したり工夫してきた。家庭でも学習時間の確保が習慣化され、自ら学ぶ姿が見られるように、さらに浸透していくよう、学校と保護者との情報交換や、協力・協働がより一層求められる。

## 児童 8 の項目「困った時誰かに相談する」について

肯定的評価は 81.7%と前期より 4.8%低下した。1 学期に「困っている時に相談できるような人間関係づくり、雰囲気作りに努めていく。」という重点目標を立てているが、肯定的評価が上がってこない状況を反省した。児童のサインを見逃さないよう、アンケート結果をすぐに活用して生徒指導に役立て、担任から声かけをしたり、欠席が 3 日以上続いている児童の状況を共有し、対応策を考え家庭訪問をしたりしている。児童に相談できる人がいることはとても大切である。保護者、教職員、友達など誰にも相談できない児童がいることのないように、一人ひとりの児童にしっかりと目を配り、児童が孤立しないように保護者と連携しながら、必要な支援・指導を心がけていきたい。

## 2 第 2 回職員アンケートの考察

### 【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

### I 学校生活について

「進んであいさつをする指導に努めている」については、「そう思う」の割合が 59.3%から 57.7%とほぼ変わらない結果だった。「あいさつの響き合う学校づくり」は教師も児童も保護者も進んであいさつを行い、継続していかないと効果は表れない。児童会活動を中心に、門のところで気持ち良いあいさつができるようにあいさつ運動を行っている。あいさつが人間関係を形成したり、一日のよいスタートになったりすることを実感できるよう、日常の学年・学級の取り組みを通して、児童とともに「あいさつが当たり前でできる。」「あいさつが気持ちよくできる。」ことを創り上げていく必要がある。

### II 学習指導について

「3 子どもに基礎的な学力が身に付く指導を行っている」では、前期より肯定的な回答が多くなり、教職員の意識が高くなったことがわかる。「児童を授業に集中させるための指導」「学習を定着させる工夫」も合わせて、「学校の授業がわかる」児童が増えていくように、わかる授業の展開と児童の学力向上を目指して継続指導していきたい。学力の向上は、学校に課せられた最も大切な課題の一つである。若南スタンダードをもとにした授業展開や基礎・基本の定着を図るための丁寧な指導や反復練習、児童の考えをつなぐ発問などの工夫、TT の活用などで学力の保障をしていかなければならない。教職員一人一人の意識改善・授業改善を進めていきたい。

### Ⅲ 家庭学習についての質問

「家庭学習を定着させるための工夫」では、肯定的回答は前期の 90.9%より上がり 100%になっている。教師の意識・工夫が高くなっている反面、児童・保護者の評価は課題がみられる。家庭学習は、家庭・保護者の協力が必要不可欠である。家庭学習見守り週間だけでなく、日頃から習慣化できるよう、全校や学年・学級での取り組みをさらに進め、アウトメディア（テレビやゲーム、インターネットなど電子メディアを使わない時間を持つ）の取組と併せて、家庭学習の定着を進めていきたい。

### Ⅳ 生徒指導について

「児童理解に努め、いじめ・不登校・問題行動等への予防に努めている」「生徒指導について、組織的かつ迅速に対応している」の2つについて「そう思う」と肯定的な答えの割合が増えている。お互いの良いところを認め合う学級、居心地の良い学級が学習活動の基盤になることを教職員が共通理解し、諸課題の早期発見・早期解決に取り組んできた。そして組織的に対応してきたことがプラスに働いていると思われる。保護者からの連絡も諸問題の早期解決につながっている。学校と家庭の連携があつてこそ、早期発見・早期解決につながるのだから、これからも報告・連絡・相談を密に行い、管理職・生指担当・コーディネーター等を中心とし、チーム若南として対応にあたっていきたい。

### Ⅴ 学校経営について

校務分掌については、マイナス評価はなくなったものの、各分掌によって業務の不均衡がないように、感じないように、お互いにカバーし合い運用できるようにしていきたい。2学期の教育活動をふり返り、3学期はより明瞭な分掌で、縦と横の連携を十分に図り、児童の健全育成のために、一致団結して教育活動に取り組んでいきたい。

### Ⅵ 学校行事について

今年度もコロナウイルス対策で大変な中で、昨年度の実績や工夫をもとに、共通理解を図りながら、計画、実践し児童の心に残る行事が行うことができた。保護者アンケートでは、コロナ禍であっても、運動会など児童の様子を見る機会を持てたことについてとても良い評価を得ている。また、安全面に気をつけながら、林間学校・修学旅行・各学年の校外学習ができたことはよかった。児童の生き生きとした姿を伝えることで保護者に学校生活の様子を理解していただけていると思う。

3学期の行事については、学校開放日や学年部会など、日程調整から計画・立案と各担当や教務主任との連絡調整を行い、早めに各家庭に周知することができた。行事の目的をしっかりと見据え、無理のない計画の中で取り組んでいきたい。

### Ⅶ 校内研究についての質問

研究主任を中心に、計画的に校内研究を進めることができた。各ブロックで「ICT 教育」を含めた授業展開を進めることができた。特にタブレット活用については、保護者の協力を仰ぎながら、進めることができた。家庭でも児童がどのようにタブレット学習を進めているのか、ご理解いただけたと思う。

研究会では、児童の学び合う姿を共有しながら、成果と課題を検証することで、今後の授業実践につながっていくであろう。校内 OJT の様子も通信での紹介があり、若い先生の悩みや困り感を職場全体で共有できていた。特別支援教育における校内支援体制も機能していた。研究主任を中心に、これからも学び続ける教員として精進していきたい。

## VIII 施設・設備・安全管理について

今年度も養護教諭、給食主任、教科主任から様々な感染症対策についての新たな情報提供や保健指導の発信があった。感染者が出現した状況であっても、児童・保護者が落ち着いて行動し、また理解と協力があり、感染した児童が悲しい思いをしなくて済んだ。

また、安全点検を総出で定期的に行い、施設の確認・必要な修繕にあたることができた。避難訓練（地震・火災・洪水を想定した訓練）・安全教育を通し、日頃から防犯・防災の意識を高める児童指導を行うことができた。しかしながら、災害はいつ起こっても不思議ではない。保護者や地域住民の協力も欠かせない。コロナ禍での避難訓練・引き渡し訓練等、いろいろな場面を想定した取り組みを今後も行っていく必要がある。

安全点検結果から交通安全を示すのぼり旗を立て、ドライバーへの注意を促してきた。今後も見守りたすきの普及や小中連携なども含めて、地域で児童を見守る学校づくりを進めていきたい。

## IX 学校と家庭との連携について

今年度は「新しい生活様式」の中、保護者・地域のご理解を得ながら、できる範囲で工夫して公開の場を設定することができた。保護者アンケートと教職員アンケートの結果とすり合わせても、学校の計画と保護者の理解がマッチした内容になったと思われる。今後も学年部会、地区会議等が開催し、保護者との信頼関係を築くことができるよう、対応をしっかりとっていく。

## 3 まとめ

アンケート調査の結果を見ると、児童・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。また、1学期に行ったアンケートよりもプラス評価が減った項目があることも、真摯に受けとめ、保護者・学校評価委員会のご意見も参考にしながら、どのように改善していけばよいか具体策を考え、実施していきたい。感染症対策に取り組みながらも、より教育効果が表れるように3学期、来年度に向けて教育活動を営んでいきたい。

### 【学校生活について】

○児童が「学校が楽しい」と思えるよう、活動の場を与えたり、集団生活の良さを味合わせたり、先生や友達から認められていると感じたりする中で、自己肯定感を高められるよう、学級づくりをしていく。否定的評価をしている児童がどうしたら「学校が楽しい」と感じられるのか個々に対応して行くことを優先していく。また、人間関係・友達関係といった社会性（社会的スキル）を高められるよう、学級活動や児童会活動、係・当番活動を通して指導していく。



## 【学習について】

○児童の「授業がわかる」についてはやや下がっている傾向がみられた。保護者の「基礎基本の定着に」「つまずきなどに積極的に」取り組むことに期待されていることを教職員が理解し、児童が1時間の学習のねらいを達成できたか、しっかり振り返りながら、授業改善をしていくことが必要である。授業改善のポイントは、学習の見通しをもたせること、自力解決をさせること、学び合いの中から課題を解決していくこと、自分の力として身に付けることなどである。その中で学習意欲の向上や基礎基本の定着を意識した授業づくりをしていくことができるよう、日々授業を大切にしてい

く。  
○今年度の研究で、ICTを活用した道徳や算数・国語・社会などの提案もされ、教師自身も学び続ける姿勢を持つことができた。どのようにしたら平行四辺形の面積を求めることができるのか、児童同士で検証し、公式を答えを見つけていた。コロナ対策に配慮しながら「主体的・対話的」に学ぶ児童の姿に成長を感じた。

今年度は座学ばかりでなく、各学年で計画した校外学習や児童会の集会活動の取組も児童の学習に大きな成果と言える。

○自分の考えを発表し、友だちの意見をしっかりと聞き、似ているところや違うところを見出し学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心して発表ができる学級をつかっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じる。児童と教師、児童同士が共に学び合う根幹は、これからも変わることなく進めていきたい。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大切な役割がある。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。日々の取り組みや、家庭学習の内容や方法を工夫し、家庭学習を充実させていきたい。学校の取り組みだけではなく、保護者の理解を深め今まで以上に協力を求めていきたい。

## 【生徒指導について】

○感染症対策を行いながら気を付けてきてきたことは、健康管理と心の管理（いじめ防止）である。「困ったときには相談していいんだよ」というメッセージを児童に送り、児童の困り感に寄り添い、また、いじめの未然防止や早期発見につなげてきた。家庭との連絡も密にとりながら、必要に応じて関係機関と連携をとりながら、諸課題に対応している。さらに、学校のきまりや約束を守ることの指導は、いじめや非行行動に対する未然防止や居心地のよい学校づくりにつながっていくと考え、実践してきた。児童は学校生活の中で様々なきまり・マナーを守りながら社会性を身につけてきた。すべての教育活動を通して、困ったときには誰かに相談すること、きまりや約束を守ることの大切さについてより一層重点をおき指導にあたりたい。また学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で教育活動を進めていきたい。

## 今後取り組む重点項目

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような『居心地のよい学校づくり』を進める。

- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、声をかけ、支援していく。「学校へ行くことが楽しい」については児童・保護者とも否定的回答が数%存在している。この結果については謙虚に受け止め、今後も継続して児童の自己肯定感の醸成や安心できる居心地の良い学級づくりに取り組んでいく。

○基礎・基本の定着と授業中の発言・質問の機会を増やし、『学び合う環境づくり』に努める。

- ・個に対応することは、とても重要な課題であり同時に難しい課題でもある。2学期の課題を改善し、チームティーティング（複数教員による授業）や「学力向上スタッフによるTT」の活用を含め、一人ひとりにわかる授業と基礎・基本の定着を行う。
- ・若南スタンダードについては、各クラスの中で定着が図られている。これからも授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていくことに取り組んでいきたい。「主体的・対話的で深い学び」についてさらなる授業改善を図りたい。

○『家庭学習』を充実させる。

- ・「家庭学習」については、保護者の回答にも課題が見られた。3学期も学校と保護者との情報交換や家庭での協力・協働についてさらに連携を深めていきたい。
- ・今後も冬休みの「アウトメディア」の取組と併せ、家庭学習の充実を図っていく。

○『いじめは絶対に許さない』という毅然とした態度で指導にあたる。

- ・保護者アンケートからは、「学校のいじめのない学級づくり」に対し 94.2%の肯定的回答を得られた。小さな事案に対しても一つ一つ丁寧に取り組んできた結果と言える。これからもいじめのない学校づくり、居心地の良い学級づくりに取り組んでいきたい。

## 《学校関係者評価書》

### 第2回学校評議委員会の中で出された主な意見

#### 1 児童アンケートの結果から（保護者も含む）

##### (1) 「学校が楽しいですか」について

○肯定的評価が 92.3%で、全体的にほとんどの児童が学校生活に満足しています。先生方のご指導で児童が安心して楽しい学校生活を送っている様子が伺えます。

しかし、否定的評価は 7.7%で 22 名の児童がいます。これらの児童の学年ごとの 実態はどんなでしょうか。コロナ禍で学校生活が制限され思うような活動ができないことも要因の 1 つと考えられます。また、考察にも指摘されているように学習面、友達関係、家庭環境から来る要因も考えられます。

いずれにしても、こういう否定的評価をしている児童に対しては、一層目を配り学校生活に居場所があるようにご指導をいただきたいです。

○児童アンケートを見て思うことは、授業がわからない→自主学習のやり方がわからない（またはマンネリ化している）→相談する相手がいない→学校が楽しくないという連鎖的な状況があるのではないかと考えられます。

先生方も授業や学習内容等を工夫していただいているとは思いますが、わからないけど相談することもできない、楽しくないと思う子供たちが一人でも減少するように、先生方と保護者が協力していくことも必要ではないかと感じました。

○前期の結果に比べて後期は全体的に肯定的な回答が低下しているが、下げ幅は小さく概ね現状維持と考察にあるが、6・7の項目については大きく下がっているため、なぜ否定的な回答が増えたのか分析し対策をお願いします。また、「困ったときに相談できない」の児童が一定数いて微増しているという認識を持ち、日々の生活の中で異常や気づきがあれば迅速に対応いただきたい。

○前期と後期で差が出てしまうのは、児童の中だるみなのか解らないですが、自主的に行動する力が基本にあるのは理解できました。

##### (2) 「あいさつがしっかりできていますか」について

○児童と保護者で評価にズレがあります。保護者のアンケートからも課題が感じられます。毎朝の児童の登校時のあいさつの様子ですが、依然として個人差があります。積極的にする児童と全然しない児童もいます。こちらから積極的にあいさつをするよう心がけています。

学校での取り組みで成果が見られているということですが、これからも継続して取り組み一層意識化を図ってほしいと思います。またあいさつは家庭が基本です。これからも学校、家庭、地域が一体となってあいさつを進めていきたいと思います。

##### (3) 「学校の授業がわかりますか」について

○全体的に、肯定的評価が 93.6%で高い数値を示しています。否定的評価は 6.4%で 19 名の児童がいます。これらの児童の実態（学年・教科等）はどのような内容でしょうか。

授業の内容がよくわからない児童には、職員一体となって早期に個人差に応じた指導をしていただきたいと思います。学習内容が理解出来る児童をどんどん伸ばしていく指導も大切ですが、義務教育はすべての児童の学力保障をできるだけ心がけていくことが役割だと思います。

(4) 「授業中に発言や質問または意見を言いますか」について

この項目については前期の評価より数値が下がっています。この点もコロナ禍で学習の仕方を制限せざるを得ない状況が影響しているのではないかと思います。校内研究を中心に、日頃より、わかる授業に一生懸命取り組んでいる先生方が苦慮している様子が推察されます。

授業は、児童が質問したり意見を言ったり、お互い学び合う場面が不可欠だと思います。まだコロナウイルス感染症の収束が見えない中、授業を進めるにあたり難しい面もあると思いますが、創意工夫し、児童が意欲的に取り組む授業づくりを目指して ほしいです。

(5) 「家庭で宿題や自主学習を自分から進んでしていますか」について

○家庭学習の取り組みは児童の否定的評価が 16.4%で前期より数値が高くなっています。保護者アンケートは各質問事項の中で、肯定的評価の数値が最も低く 76.9%、否定的評価の数値が最も高く 23.1%になっています。家庭学習については今後しっかり取り組まなければならないと思います。

学校では家庭学習については一層工夫をしながら、取り組みをしてほしいと思います。また、家庭学習は家庭の協力が不可欠です。学校、家庭がそれぞれ役割を果たし、そうした中で連携をして家庭学習の習慣化を図ってほしいです。

(6) 「困った時、誰かに相談できますか」について

○アンケート結果から困った時、相談できる人がいない児童は 18.3%で 5.3 名います。こういう状況は大変危惧されます。学年ごと実態をしっかりと把握する必要があります。そして、支援が必要な児童については、学校全体で共通理解を図り、きめ細かく対応していただきたいと思います。

学校では、児童と先生方が信頼関係を構築し、何でも話せる関係作りが大切だと思います。

## 2 職員アンケートの結果から

○すべての質問項目において肯定的評価が高い数値を示し、学校教育目標を達成するため校長の学校経営方針を共通理解し協力し合って、日々教育活動を誠心誠意展開している様子が伺えます。

いろいろな課題があるにせよ、ほとんどの児童が学校生活を楽しく過ごしている様子は、先生方のご指導の賜物だと思います。

コロナ禍で学校行事や学年行事等推進していく上で大変なご苦勞があったと思いますが、運動会をはじめ修学旅行・林間学校、その他学年行事等創意工夫され感染対策を完璧にしながら実施できたことは大変良かったと思います。

本当にご苦勞様でした。

先生方の勤務の多忙化が課題となっている中、コロナで感染対策はじめ新しい生活様式の指導等、通常の仕事以外に大変ご苦勞されている様に心から感謝申し上げます。コロナウイルスの感染症の収束が見えない中、先生方には健康には十分留意され、ご活躍されますようお願い申し上げます。

○コロナウイルス対策をしながら、授業を進行するのは大変なことだと思います。いじめ、不登校対策も効果が上がっているようで素晴らしいと思います。

○結果を見て思ったことは、⑤家庭学習の定着を図るために工夫しているかが約 10.9% 学校行事が職員の共通理解のもと～が約 20%減少している理由が知りたいです。⑤については家庭学習という意味からも、家庭での協力が必要な部分もありますので、減少しても致し方ないと思いますが、⑨につい

ては、コロナの影響で学校行事が減ったからということでの減少なのか疑問に思います。

また、⑮の設問についてですが、保護者アンケートの⑩と比べて差があるように思います。先生方にとっては適切に対応したつもりでも、子供達や保護者にとっては未解決のままということもありますので、注意する必要があると思います。

○コロナにより社会は大きく変化し、以前とは異なる考え、生活となり、学校生活も大きく変化する中、先生方の努力もあり、感染対策をしながら今まで以上の学校運営をしていただいていると思っております。この多様性を重んじる世の中になってきていますが、学校生活では集団の中で生活することの大切さを学べる場でもあるので、新しい考えも取り入れながら、今までの良さも残る教育の場としていただきたい。

### 3 保護者のアンケートから

○否定的な回答が多かった2項目（挨拶、家庭学習）は保護者の願望として「もっとできるはず」「もっとしてほしい」が反映されているように感じました。保護者の立場としてはどちらも100点満点になることはないのかもしれませんが。

○③の設問について「そう思う」と感じる保護者の少なさに大変驚きました。あいさつや言葉遣いは、家庭で学ぶものであり、学校で学ぶものではないと思っています。保護者が全て学校任せであるように感じました。今の子供たちはあいさつができないと思うだけでなく、当たり前のことである「あいさつ」を親が躡けるということが必要なのではと感じました。

また、記述部分に載っている、先生の言葉遣いについては、私も時々気になるところがありましたので、注意が必要ではないでしょうか。

### 4 その他

○今後、取り組む重点項目の4点を着実に進めていただければ、さらにスパイラルアップされると思います。

コロナにより世の中が大きく変化する時代となり、学校運営も変化に取り残されないよう、世の中の動向を見ながら今まで培ったノウハウも継承し、よい学校運営をお願いします。柔軟に対応できる準備も必要かと思えます。マニュアル通りに行くことではないですが。

○記載していただいた項目について、注意していただきながら、少しずつでも改善がみられるよう、若草南小に関わるすべての人たちが意識をしていただけるようになるといいと感じました。

○昨年12月15日に若草中1・2年生と若草小・若草南小5・6年生550人が中学生のリーダーシップの下、一緒に若草地区の清掃活動をしました。児童生徒が10人ずつのグループに分かれ、交流を深めながら学区内の公共施設や通学路周辺のゴミや落ち葉拾い、花壇の整備など行いました。

小学生にとっては中学生から中学校の話の聞いたりして、中学校を身近に感じる機会でもありました。また地域にとっても清掃活動できれいになるだけでなく、地域に元気を与えてくれる活動でもありました。これからの活動に期待したいと思います。

○浅原橋西詰交差点は児童の集団登校と一般の人の通勤時間が重なり、大変交通量が多く、危険な面もあります。

そんな中、若草駐在所の警察増子様が児童の登校時、街頭指導をして下さっています。

児童に安心感を与えると共に、地域にとっても交通安全だけでなく不審者対応にも多大な効果があると心強く思っています。大変ありがたく感謝しています。